

西洋道中膝栗毛

十編
上

14
1260
19



134
1260
19

Bancokuyanki
海航西萬

假名垣魯文戲著

西洋道中

膝栗毛拾編

萬笈閣梓

一蕙齋芳幾狂筆

古ヨリ戲作者ナルモノ有テ安語

中ノ安説ヲ編出シ贅書中ノ

贅冊ヲ上梓ス寸モ其世ニ効ナキ

而已ナラズ随テ童蒙ヲ欺クニ至ル斯

ク文明ノ世ニ至ルト雖モ未タ其類少

カラズ豈歎カザル可シ哉獨リ我カ友



魯子此時ニ當リテ一朝五大洲ヲ
 夢遊シ所謂世界ノ名山大川各
 國ノ風土氣候及ヒ其佗奇觀壯
 覽_ト稱スルモノ記シテ數篇トナス其趣
 其文戲書ニ屬スト雖モ童蒙婦女
 フレテ畧其地名事情ヲ知ラシメ際

其方位里程ヲ知ラシム是レ世
 間ノ妄說寓言ノ書ト今日ノ論ニア
 ラズ少レク世ニ效アルニ近フレテ彼ノ
 一九七章ノ戲書ニ優ル_ク遠レ始テ
 知ル魯子ハ魯子ニアラザルヲ請_フ此
 編ヲ閱スルモノ世間ノ合卷ト稱スル

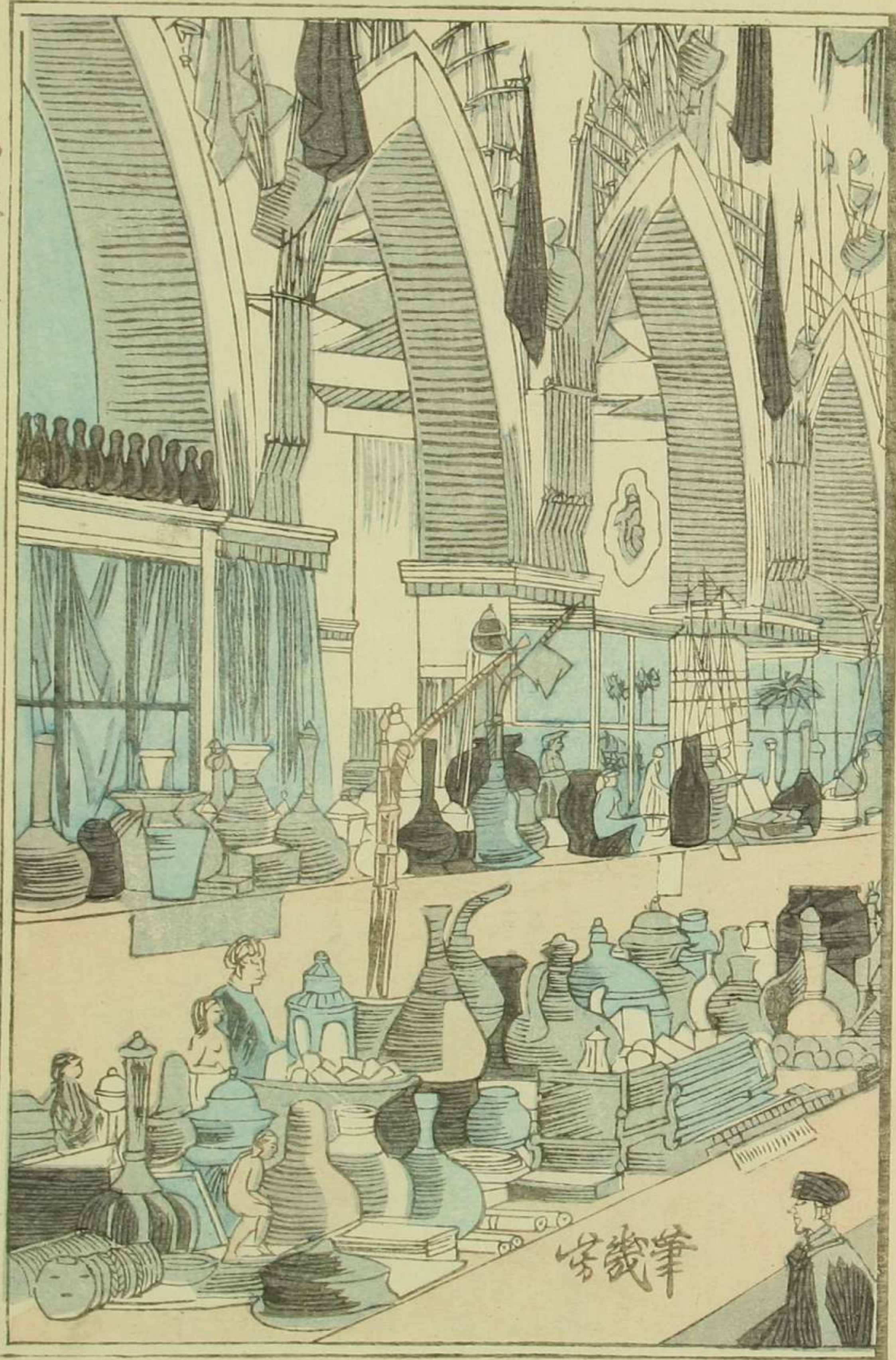
寓説ノ編ト同視スルイナクンバ院セ

ザルニ勝ラン歟

于時辛未仲殊

友人星一序 ☆





西洋の美術

筆幾字



龍頓博覧會左
 則頃見
 之圖

西洋の美術

三十一

古登婦祢者千風念百
 船津奈毛怒茂美都保
 廼久仁汝那已加世藻
 南之

紀魯 𠄎 𠄎

顯橫灣港泊船艦

從名古屋之書帖

尚節名在至表甚居十七古左今在
 今之神名書符乃今之今之西洋絲
 需毛之相之亦物之今之海刺之
 未夕亦句之今之今之定今之左今之
 絲之今之今之今之今之今之今之
 今之今之今之今之今之今之今之

萬家之書帖

張氏

未十月中旬旬方

古袖界中村座立



豪本

中村座立

前巻

菅原傳長書

切巻

弥二郎

西洋藥栗七上下



下の子三吉

長及家

市山丸藏

三味せり

狂言作者

若人核丸

助高屋

在言者

三味せり

附西山

三果せり

取木

千鶴

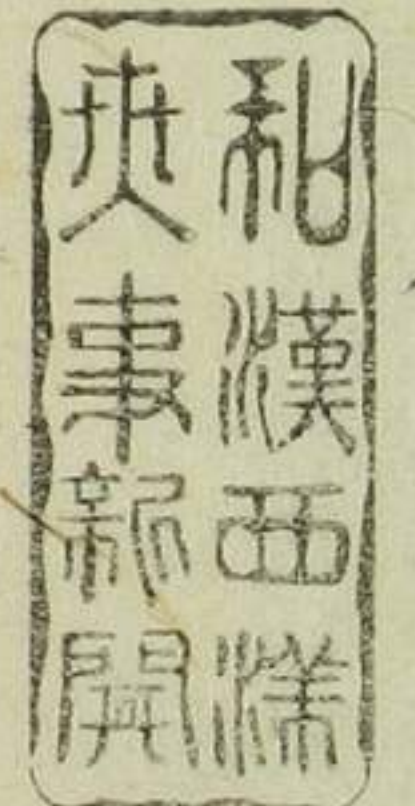
取木

西洋栗毛拾編後序
 當編也世界第一滑稽稗史の駿足はしそく。
 一鞭千里の大評判内地の看官は勿論横濱
 築地不在留の外客競ひて購ひ求め才暇ふ
 学ひ讀まざるは。既ニ當時尾州名古屋古
 袖町の戲場ふ於て。是を脚色て人気を引く
 此膝栗毛の驥尾ふ附き。目的の當利を覘ふ
 が為あり。かきむ魯文先生の雷名交際の名

國小裏まじり。目今佛國の馬曲師スリエ
 ある。個曲馬與行の告條及び自己の傳記
 旅中の紀行。かんの倭解を乞へるところも
 又膝栗毛の餘澤はして所謂馬の馬連の
 因縁みやあらん。乍麼先生の編を成や。
 諺ふ云ふつづけ書め。再稿を省は。是をえ
 許すの著述に追ひ。筆硯繁雜止を得ぬ
 杜撰廢漏も少く。神。頓才筆力江湖上の

流行上下の事情を穿つ小至りく。稗官
 者流の二筆小下り。實小戯作者の巨筆
 と稱ゆ。此物の伯樂とあり。小栗が
 馬を讚誉し格あ。序者の後馬は兼地の
 一言。曷采々々と嘆称ふあん

那夢傳盲屋老人題



西洋道中膝栗毛拾編上

東京

假名垣魯文戯著

文明窓の花屋さ。東海小舟く西洋の道潜むる
 を案内の記。魏張書の勢りする。珉江入楚の原書を
 披りく。畢小今日の僥倖を得る小あるの好機會
 業濼天窓が月代の小もやも。無業がエビシを書き
 且小道をばいて夕小あまも可なりとらる。儒の
 文ある灯の折しきも姓名を志る小是もが裁

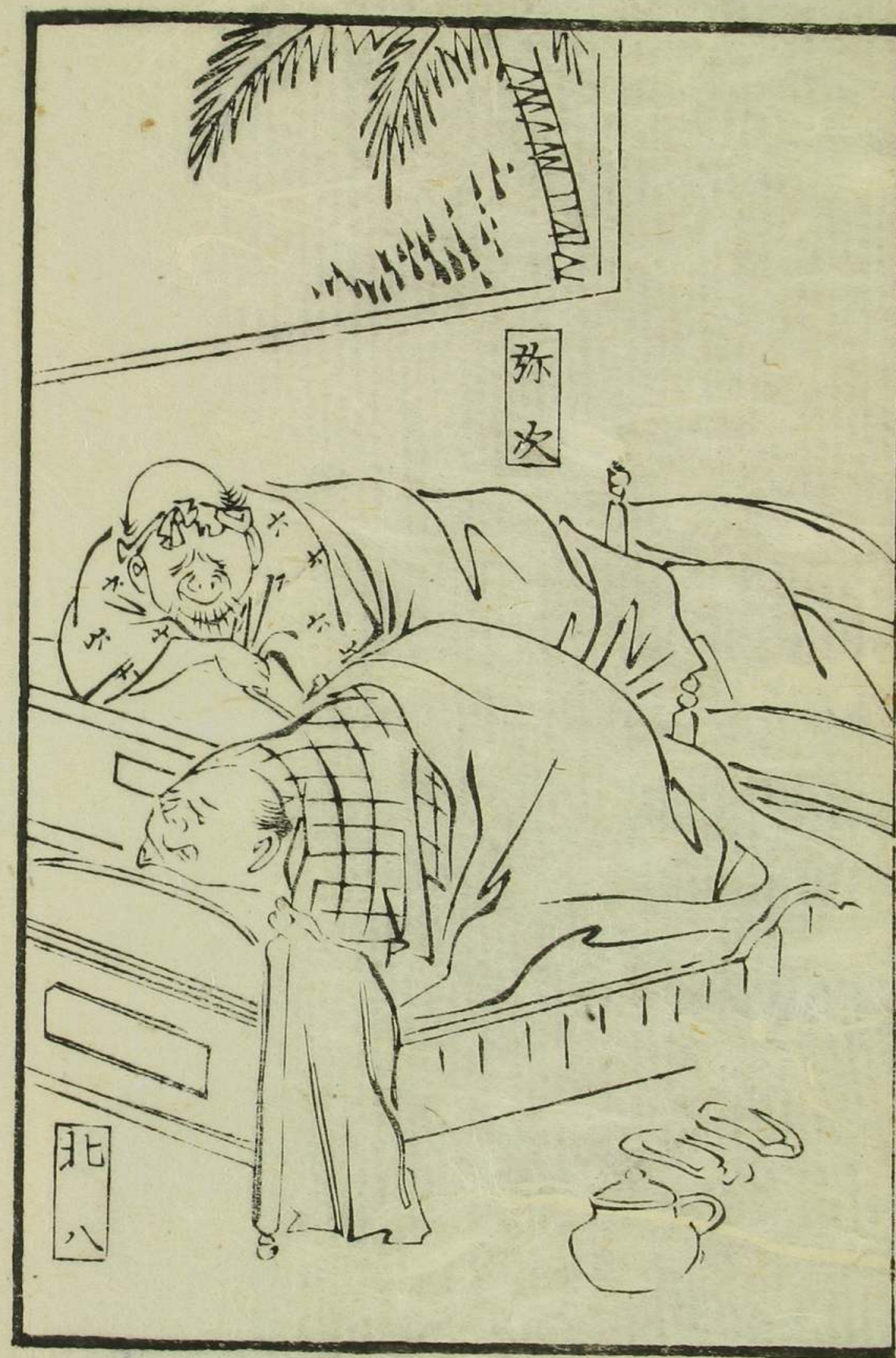
西洋道中膝栗毛拾編上

あたぬふあるの遅いと。引込思案が周備姑息と千
 振袖に十返回素続二十筆六十。遅速を輪せと学
 おろ専一倫緒よ中世の痛落知らせと一生活つら
 ありだも麻糍ぜんと禽歎扱ひけこころをうま
 九風あまたまらむらむらと何とも何とも何とも
 宜航海さるふたろろ。弥江郎北八二人りの者ハカ
 イ口の歌下をよき色あくる車より痛く痛くふた
 りの。その夜海泊舎小枕をなると。ウとくうふたくと

妙せしが次の日もいそいそと去らむ形と救日をほし
 あは博覧舎の機舎ふとくも航海先ふとせられバ
 魚園小をらく治療を交一時も疾く全快させんと
 春を度流が指揮おより通次郎ハ旅者の主人を
 たのまゝ東地の病院に兩個を擧おらうとせせし
 送りおきと由を云と一間を借交通数一上等の
 医の診察をととえんと被知小待居けり

○作者曰歐羅巴諸國の病院小病者入院の規則

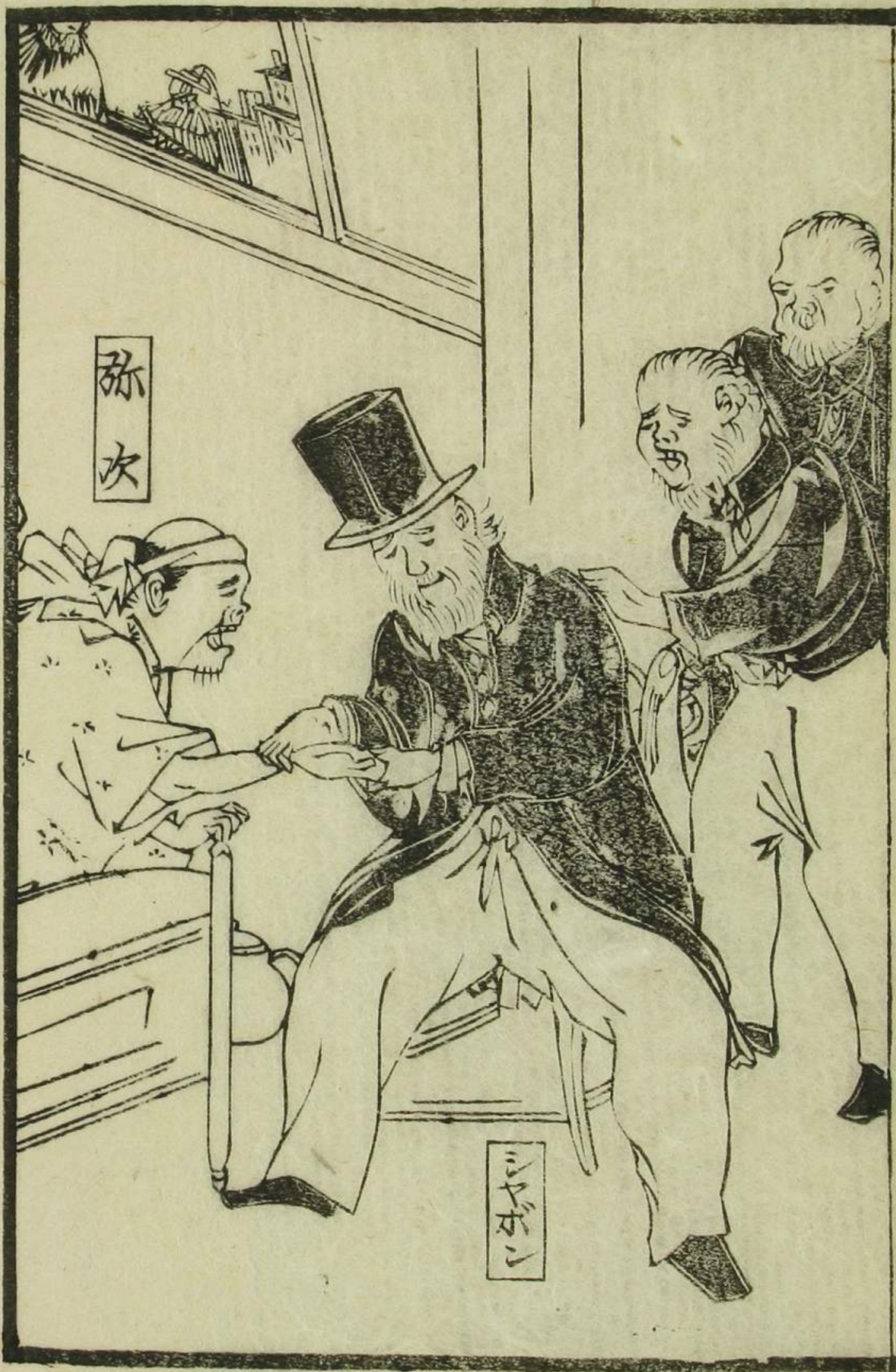
田治勇毛十一





北八

通次



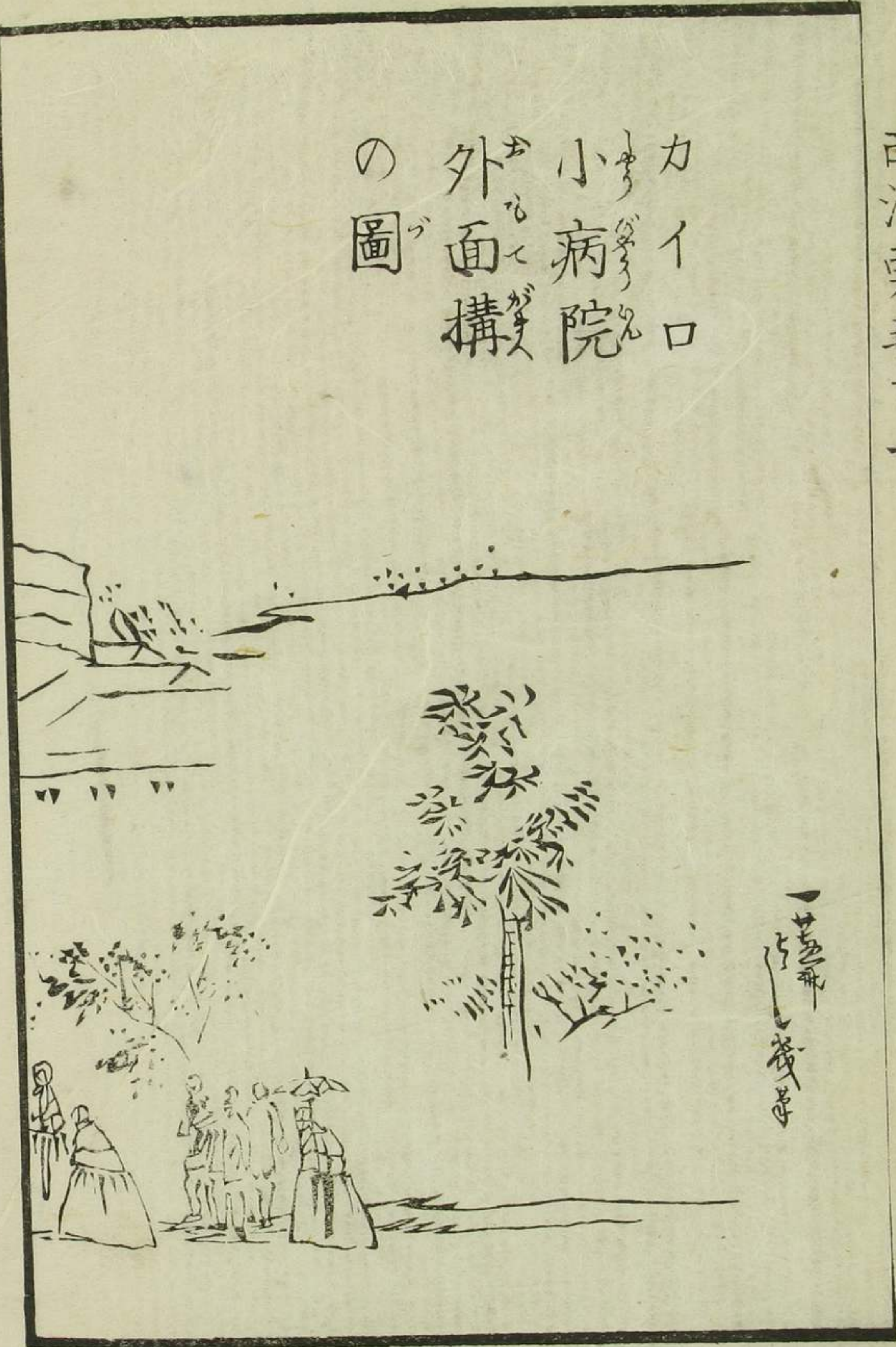
弥次

ニヤボン

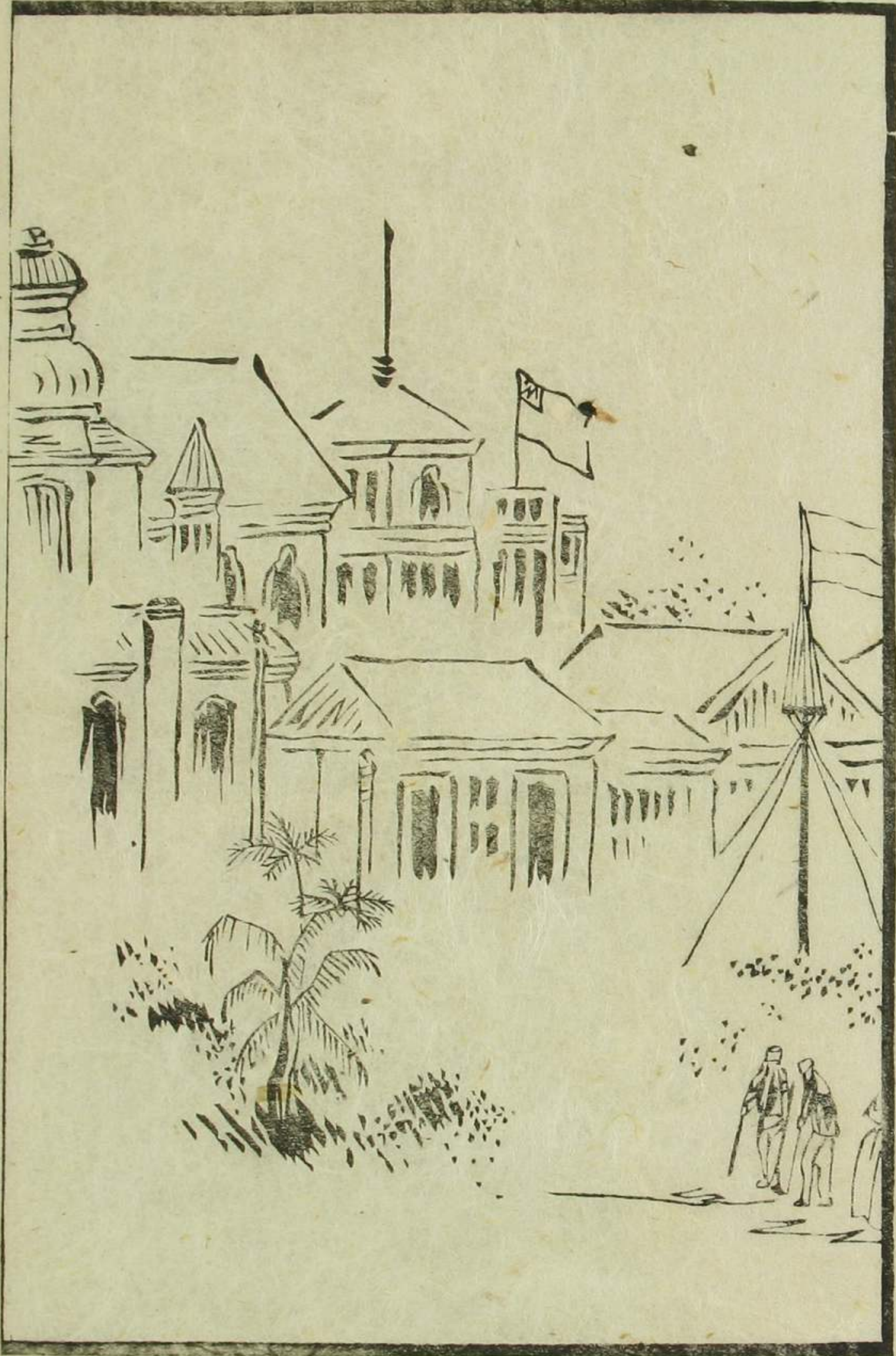
あまのちうからさた入てらごうとあててらんね
 ころごよも片手が自由あらねらヨアイタ
 け素入めごうあやアぐるをあせといつたらそを
 せく北アころやアゆがだんくあびてくるのホアイタ
 うぬきんたぬをあびるき膏生めらぬく
 もがほどさへたどたのつるもあられもあらまのつたてあめよ
 せらうちあひくあまよりらちよまるゆふ今まで十時ありじもたち
 まちふあ人があひの糸
 ちごまを水ささめが
 く北通さん ヤアイシ
 トちごまあびてあくがうとあは
 ちらまそのうちあたまの

の腐やぐ念ららかしたるごと便毒一ツ證あ
 ここのねへのあめだらうそれとりあが身あんや
 がりから対妓小瘰癧があつてもい方のからだん
 らけつるをせね入るア平常の行妓よするのだねエ
 通さん 通自分てらめらる遠へあつらうが「シヤ
 ボ」が若小瘰癧をあつらわなんごヨ北「そらだ
 らうく」証派さんごうと瘰癧のね入自瘰癧て死
 めへ舊年おららと一症若小瘰癧の若松一遊具ふ

カイロ
小病院
外面構
の圖



一
五
七
後
景



引^ひと^とつ^つ久^く畧^{りやく}なる^{なる} 疋^かの^の音^ね「^カン^カラ^ラカ^ン」
 通^と「^カア^アモ^ウ四^よ字^じだ^い五^ご」

西洋道中膝栗毛拾編上 了

